

母性看護学実習（2単位 90時間）

実習目的

1. 母性を取り巻く環境を理解し、母性看護のあり方について学ぶ。
2. マタニティサイクルにおける母子の健康問題を理解し、対象と家族に応じた看護実践能力を養う。

実習構成

実習名	単位数	対象学年	実習施設	
母性看護学実習	2単位 90時間	3年次	静岡済生会総合病院 北3階病棟 北4階病棟 産婦人科病棟	1.8単位 82.5時間
			助産所 おしか助産院 たまがわ助産院 己智助産所	0.2単位 7.5時間

1. 実習目標

1) 実習目標

- (1) 妊産褥婦および新生児の正常な経過を理解する。
- (2) 母子の健康問題を判断し、対象のセルフケア能力を高める看護実践能力を養う。
- (3) 妊産褥婦の主体性を尊重した看護の重要性が解る。
- (4) 母性看護における継続看護の必要性が分かる。
- (5) 助産所の活動を学び、地域における母性看護の必要性を考える。
- (6) 異なる母性看護の場から役割や機能を学び、母性看護の在り方考える。

2) 行動目標

【妊娠期】

- (1) 妊婦健康診査の目的を述べる。
- (2) 妊婦健康診査に必要な技術を手順に従って実践する。
- (3) 妊婦の観察と計測・検査結果から、母体の変化や胎児の発育状態を分析する。
- (4) 妊娠に伴う健康問題やマイナートラブルに対する保健指導の必要性を説明する。
- (5) 妊婦の不安や悩みを傾聴する機会を求める。
- (6) 異常妊娠・合併症妊娠の治療および看護に対する妊婦の反応を、記述する。
- (7) 指導下で、妊婦に必要な日常生活への援助を実践する。
- (8) 妊婦と家族および、取り巻く人々への援助の必要性を述べる。

【分娩期】

- (1) 正常分娩の経過を述べる。
- (2) 産婦の分娩進行状態の情報を収集し、正常な分娩経過と比較し説明する。
- (3) 指導者と共に陣痛測定し、産痛緩和への援助が見学できる。
- (4) 胎児の発育状態を理解するために必要な情報を収集できる。
- (5) 胎児心拍数モニタリングの重要性から胎児の健康状態がわかる。
- (6) 指導下で、産婦に必要な日常生活への援助が見学できる。
- (7) 産婦と家族の分娩に対する思いを認め、その援助の必要性を述べる。
- (8) 胎児付属物の観察・計測結果から、異常などとの関連性を述べる。
- (9) 出生直後の新生児の観察と援助の見学から、子宮外適応過程の看護を関連づける。
- (10) 出生直後の母児接触の意義を述べる。

【産褥期】

- (1) マタニティ診断ガイドブックに基づき収集した情報を識別する。

- (2) 対象の妊娠分娩経過が、産褥経過に及ぼす影響を分析する。
- (3) 対象の退行性・進行性変化を観察し、産褥期の生理的経過と関連づけてアセスメントする。
- (4) 対象の健康問題を、専門科目の知識を用いた根拠に基づき判断する。
- (5) 復古を促すための援助を計画し、対象自身が復古現象を促す行動が取れるよう支持する。
- (6) 母乳分泌・新生児の哺乳機序に基づいた援助を計画し、対象の乳房自己管理を支援する。
- (7) 基本的生活行動におけるセルフケア能力をアセスメントし、正確にかつ適切な時間内に実施する。
- (8) 精神・心理的生活行動を解釈し対象の主体性を尊重の上で、見解を示しつつ育児行動を支持する。
- (9) 援助時は根拠を説明し、提供した母性看護技術と対象の反応を観察し、評価する。
- (10) 対象の家庭・社会環境から退院後の生活のサポート、育児環境について解釈する。
- (11) 保健指導を見学し、個々の褥婦に応じた保健指導の必要性を述べる。

【新生児】

- (1) マタニティ診断ガイドブックに基づき収集した情報を識別する。
- (2) 母親の妊娠分娩経過が、対象児の出生直後およびその後の経過に及ぼす影響を分析する。
- (3) 生理的特徴を観察し、早期新生児期の生日と関連づけて健康状態をアセスメントする。
- (4) 対象の健康問題を、専門科目の知識を用いた根拠に基づき判断する。
- (5) 子宮外生活へ適応し正常な経過を促すための援助を、対象の反応を確認しながら、正確に実施する。
- (6) 母親の出産育児行動をアセスメントし、新生児の健康生活支援と関連づけて分析する。

【助産所】

- (1) 助産所の理念や活動を記述する。
- (2) 地域の母子および家族の生活環境を踏まえ、健康を維持増進するための看護の必要性を説明する。
- (3) 助産所と医療施設という、異なる看護活動の場の役割や機能を知る。
- (4) 母性における多様な価値観を認め、地域の特性やニーズを充足する看護について述べる。

2. 実習方法

【産婦人科外来】

- 1) 妊婦健康診査の援助を指導下で実践し、マタニティサイクル上の健康問題や発達課題を理解する機会とする。
- 2) 外来看護を見学し、妊娠期の健康教育の必要性を学ぶ機会とする。

【北3階病棟】

- 1) 経膈分娩および腹式帝王切開術の見学をし、分娩期の経過や看護を学ぶ機会とする。
- 2) 分娩期の看護を見学し、指導下で援助を実践する。
- 3) 異常妊娠および合併症妊娠の妊婦の看護を見学し、指導下で援助を実践する。
- 4) 妊娠期・分娩期の看護から、周産期の健康と受け持ち母子の看護を振り返る。

【北4階病棟】

- 1) 1組の母子を受け持ち、看護過程を展開する。
- 2) 新生児の情報は、新生児室で得る。
- 3) 母子の健康教育活動を見学または参加し、個々の褥婦に応じた看護の必要性を考える機会とする。
- 4) 地域で生活する母子の環境を踏まえ、家族を含めた継続看護の必要性を学ぶ。

【北4階病棟（新生児室）】

- 1) 新生児を1名受け持ち、指導下で援助を実践する。
- 2) 早期新生児期の新生児観察とアセスメントを行い、診断する。

【助産所】

- 1) 地域における助産師活動を見学し、母性看護を学ぶ。
 - ・妊婦健康診査
 - ・母子保健指導
 - ・助産
 - ・分娩入院時の看護
 - ・新生児訪問指導
 - ・妊娠中から産後のマタニティ教室
- 2) ライフステージ各期の母子保健活動を見学し、母性看護の在り方を考える機会とする。

3. 留意点

- 1) 各実習場所でオリエンテーションを受け、自発的に学習の機会を求めて行動する。
- 2) プライバシーの保護に十分な配慮を行い、コミュニケーションにて対象や家族との信頼関係を図る。
- 3) 手洗いを充分に行い感染予防に努め、感染症罹患時は指導者に相談する。
- 4) 手順を正確に行い、安全な看護援助を提供し、事故防止に努める。
- 5) 以下の“母性看護学実習を通して深めたい視点”を念頭に置き、実習する。
 - (1) 母子に適応される法的保護・諸制度・社会資源。
 - (2) 地域の医療機関・母性看護領域の保健や福祉を担う関連機関との連携や継続の必要性。
 - (3) 母性看護領域における健康教育のあり方。
 - (4) 周産期看護を通して、ライフサイクル各期の女性に対する母性看護の役割。
 - (5) 出産を見学して感じた生命（いのち）の尊厳。
 - (6) 自己の持つ母性感・父性感。
- 6) 実習での学びをレポートにまとめる